

平成28年10月 東京地区百貨店売上高概況

平成28年11月22日

I. 概況

1. 売上高総額	1,265億円余
2. 前年同月比	-4.4% (3か月連続マイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-2.7%(91.3%) : 非店頭-19.1%(8.7%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成28年9月対比±0店)
5. 総店舗面積	882,506㎡ (前年同月比:3.0%)
6. 総従業員数	18,789人 (前年同月比:-0.6%)
7. 3か月移動平均値	3-5月 -2.3%、4-6月 -3.1%、5-7月 -2.2%、 6-8月 -2.6%、7-9月 -2.6%、8-10月 -4.5%

[参考] 平成27年10月の売上高増減率は7.4% (全国4.2% : 店舗数調整後)

【特徴】

- (1) 10月の入店客数は、日曜1日増もあり1.3%増で2か月連続のプラスを記録したものの、売上高は、昨年高伸の影響もあり4.4%減で3か月連続のマイナスに終わった。
- (2) 月上旬は降雨日が多く、気温も30℃を超える日が2日あるなど、天候にも恵まれず秋物商戦にとって厳しい立ち上がり。中旬からの挽回も届かず衣料品は6.5%減。その他の品目も伸び悩み2か月連続で主要5品目が前年割れとなった。
- (3) 細分類では、紳士服が前月から大幅な改善(-12.2%⇒-4.6%)を見せ、化粧品も好調を継続。4.3%増で19か月連続のプラスを記録しているが、婦人服(-7.0%⇒-8.0%)がマイナス幅を拡大、その他衣料もマイナスに転じるなど厳しい商況は続いている。
- (4) 商品別では、気温低下にあわせて、紳士スーツや婦人キャリアコートなどの必要購買に動きが見られ始めたが、昨年のコーディガンのようなヒットアイテムの不在から、不要不急の購買を控える傾向は続き、外出機会の少ないミセスゾーンなどでは模様眺めが続くとの報告。一方、美と健康に対する意識は高まり、化粧品はインバウンドに限らず国内需要も継続して堅調。フィットネスやヨガなどの関連商品にも人気が集まっている。
- (5) 11月は歳暮の出足の鈍さや、昨年の暖冬による重衣料不振からの反動増が期待ほど伸びておらず、16日現在約2%減で推移。おせちについては、限定品を中心に好調で、特にインターネット受注が2桁増の伸びとの報告が入っている。

【要因】

- (1) 営業日数増減 31.0日 (前年同月比 ±0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
①増加した:9店、②変化なし:2店、③減少した:8店
- (3) 10月歳時記 (秋物商戦、秋の行楽)の売上 (同上/有効回答数11店舗)
①増加した:0店、②変化なし:6店、③減少した:5店

東京地区百貨店 売上高速報 2016年10月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	126,553,306	100.0	-4.4
紳士服・洋品	12,974,887	10.3	-4.6
婦人服・洋品	26,001,968	20.5	-8.0
子供服・洋品	2,511,099	2.0	-1.2
その他衣料品	2,514,315	2.0	-5.5
衣 料 品	44,002,269	34.8	-6.5
身のまわり品	18,161,394	14.4	-4.2
化粧品	10,659,520	8.4	4.3
美術・宝飾・貴金属	8,201,294	6.5	-8.2
その他雑貨	5,229,933	4.1	-6.4
雑 貨	24,090,747	19.0	-2.6
家 具	1,567,739	1.2	-21.1
家 電	524,498	0.4	-44.2
その他家庭用品	4,048,934	3.2	-6.5
家 庭 用 品	6,141,171	4.9	-15.4
生 鮮 食 品	4,508,002	3.6	-0.6
菓 子	7,047,525	5.6	-0.8
惣 菜	6,917,488	5.5	-2.7
その他食料品	7,842,481	6.2	-0.3
食 料 品	26,315,496	20.8	-1.1
食 堂 喫 茶	3,015,650	2.4	-2.7
サ ー ビ ス	2,170,718	1.7	2.2
そ の 他	2,655,861	2.1	5.8

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。
本統計には消費税は含まれておりません。

		対前年増減(-)率(%)
商 品 券	2,018,219 千円	-11.0
従 業 員 数	18,789 人	-0.6
店 舗 面 積	882,506 m ²	3.0

営 業 日 数	31.0 日	前年	31.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、2か月連続で全品目がマイナスとなった。その他の品目は、全国同様化粧品が19か月連続のプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-4.4	—	3か月連続マイナス
紳士服・洋品	-4.6	-0.5	3か月連続マイナス
婦人服・洋品	-8.0	-1.7	12か月連続マイナス
子供服・洋品	-1.2	0.0	4か月連続マイナス
その他衣料品	-5.5	-0.1	2か月ぶりマイナス
衣料品	-6.5	-2.3	12か月連続マイナス
身のまわり品	-4.2	-0.6	3か月連続マイナス
化粧品	4.3	0.3	19か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-8.2	-0.6	8か月連続マイナス*
その他雑貨	-6.4	-0.3	3か月連続マイナス*
雑貨	-2.6	-0.5	3か月連続マイナス
家具	-21.1	-0.3	2か月連続マイナス
家電	-44.2	-0.3	3か月ぶりマイナス
その他家庭用品	-6.5	-0.2	6か月連続マイナス
家庭用品	-15.4	-0.8	2か月連続マイナス
生鮮食品	-0.6	0.0	8か月連続マイナス*
菓子	-0.8	0.0	3か月連続マイナス*
惣菜	-2.7	-0.1	4か月連続マイナス*
その他食料品	-0.3	0.0	2か月ぶりマイナス*
食料品	-1.1	-0.2	3か月連続マイナス
食堂喫茶	-2.7	-0.1	10か月連続マイナス
サービス	2.2	0.0	4か月連続プラス
その他	5.8	0.1	15か月連続プラス
商品券	-11.0	-0.2	20か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・関 まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>